

卓越大学院プログラム 事後評価調書 プログラムの基本情報 [公表。ただし、項目12、13については非公表]

機関名	東北大学		採択年度	令和元年	整理番号	1901
1	プログラム名称	変動地球共生学卓越大学院プログラム				
	英語名称	WISE program for Sustainability in the Dynamic Earth				
	ホームページ (URL)	https://syde.tohoku.ac.jp/				
2	全体責任者 (学長)	<small>※ 共同実施のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、申請を取りまとめる大学 (連合大学院によるもの場合は基幹大学) の学長名に下線を引いてください。</small> 氏名 (職名) 富永 悌二 (東北大学総長)				
3	プログラム責任者	氏名 (職名) 山口 昌弘 (東北大学・副学長 (教育改革・国際戦略担当))				
4	プログラムコーディネーター	氏名 (職名) 中村 美千彦 (東北大学大学院理学研究科・教授)				
5	設定する領域	最も重視する領域【必須】	①我が国が国際的な優位性と卓越性を示している研究分野			
		関連する領域 (1)【任意】	②社会において多様な価値・システムを創造するような、文理融合領域、学際領域、新領域			
		関連する領域 (2)【任意】	なし			
		関連する領域 (3)【任意】	なし			
6	主要区分	最も関連の深い区分 (大区分)	B			
		最も関連の深い区分 (中区分)	17	地球惑星科学およびその関連分野		
		最も関連の深い区分 (小区分)	17040	固体地球科学関連		
		次に関連の深い区分 (大区分)【任意】	C			
		次に関連の深い区分 (中区分)【任意】	25	社会システム工学、安全工学、防災工学およびその関連分野		
		次に関連の深い区分 (小区分)【任意】	25030	防災工学関連		
7	授与する博士学位分野・名称	博士 (理学)、博士 (工学)、博士 (情報科学)、博士 (環境科学)、博士 (医学)、博士 (文学)、博士 (経済学又は経営学)、博士 (学術) 付記する名称: 変動地球共生学卓越大学院プログラム				
8	学生の所属する専攻等名 <small>(主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)</small>	東北大学理学研究科地学専攻・地球物理学専攻、東北大学工学研究科量子エネルギー工学専攻・化学工学専攻・土木工学専攻・都市・建築学専攻・技術社会システム専攻、東北大学情報科学研究科応用情報科学専攻・人間社会情報科学専攻、東北大学環境科学研究科先端環境創成学専攻、東北大学医学系研究科医科学専攻、東北大学文学研究科日本学専攻・広域文化学専攻・総合人間学専攻、東北大学経済学研究科経済経営学専攻				
9	連合大学院又は共同教育課程による実施の場合、その別 <small>※ 該当する場合には○を記入</small>		10	本プログラムによる学位授与数 (年度当たり) の目標 <small>※ 補助期間最終年度の数字を記入してください。</small>		
	連合大学院		共同教育課程	15人		
11	連携先機関名 (他の大学、民間企業等と連携した取組の場合の機関名)					
Stanford University, Harvard University, University of Washington, University College of London, University of Indonesia, Sorbonne University, University of Hawaii at Manoa, 独立行政法人国際協力機構、東京海上日動火災保険株式会社、日本工営株式会社、五洋建設株式会社、独立行政法人エネルギー・金属資源鉱物機構、住友金属鉱山株式会社、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国立研究開発法人防災科学技術研究所、株式会社安藤・間、株式会社 INPEX、株式会社奥村組、応用地質株式会社、地熱 エンジニアリング株式会社、復建調査設計株式会社、鹿島建設株式会社						

【公表】

14 プログラム担当者一覧								※「年齢」は公表しません。	
番号	氏名	フリガナ	年齢層	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	フラット割合	
1	(プログラム責任者) 山口 昌弘	ヤマグチ マサヒロ		東北大学・副学長(教育改革・国際戦略担当)	理学博士	素粒子理論	プログラム責任者	1	
2	(プログラムコーディネーター) 中村 美千彦	ナカムラ ミチヒコ		東北大学・大学院理学研究科・地学専攻・教授	博士(理学)	火山学	プログラムコーディネーター、運営委員長、火山学に関する教育研究と人材育成	3	
3	風間 聡	カザマ ソウ		東北大学・大学院工学研究科・土木工学専攻・教授	博士(工学)	水文学	全学の大学院教育改革と連携強化	2	
4	掛川 武	カケガワ タケン		東北大学・大学院理学研究科・地学専攻・教授	Ph. D.	生命起源地球科学	知を探究するユニット担当、産官学連携委員、生命起源地球科学に関する教育研究と人材育成	1	
5	長濱 裕幸	ナガハマ ヒロユキ		東北大学・大学院理学研究科・地学専攻・教授	理学博士	地質学	知を探究するユニット担当、自然災害に関する教育研究(基礎コース)と人材育成	2	
6	西村 太志	ニシムラ タケン		東北大学・大学院理学研究科・地球物理学専攻・教授	博士(理学)	火山物理学	知を探究するユニット担当、火山物理学に関する教育研究と人材育成	1	
7	岩渕 弘信	イワブチ ヒロノブ		東北大学・大学院理学研究科・附属大気海洋変動観測センター・教授	博士(理学)	気象学	知を探究するユニット担当、運営委員兼 教務委員長、気象災害と気候変動に関する教育研究と人材育成	1	
8	鈴木 昭夫	スズキ アキオ		東北大学・大学院理学研究科・地学専攻・准教授	博士(理学)	量子ビーム地球科学	知を探究するユニット担当、地球深部科学に関する教育研究と人材育成	0.5	
9	日野 亮太	ヒノ リョウタ		東北大学・大学院理学研究科・付属地震・噴火予知研究観測センター・教授	博士(理学)	固体地球物理学	知を探究するユニット担当、地震・津波災害軽減に資する教育研究と人材育成	1	
10	趙 大鵬	チョウ タイホウ		東北大学・大学院理学研究科・付属地震・噴火予知研究観測センター・教授	理学博士	固体地球物理学	知を探究するユニット担当、地震火山科学に関する教育研究と人材育成	2	
11	辻森 樹	ツジモリ タツキ		東北大学・大学院理学研究科地学専攻・教授	博士(理学)	地殻化学	知を探究するユニット担当、地質学に関する教育研究と人材育成	1	
12	平野 直人	ヒラノ ナオト		東北大学・東北アジア研究センター・教授(大学院理学研究科地学専攻 兼務)	博士(理学)	海洋底地質学	知を探究するユニット担当、海洋底地質学に関する教育研究と人材育成	0.5	
13	寺田 直樹	テラダ ナオキ		東北大学・大学院理学研究科・地球物理学専攻・教授	博士(理学)	惑星圏物理学	知を探究するユニット担当、国際連携委員、宇宙災害と宇宙天気に関する教育研究と人材育成	2	
14	渡邊 豊	ワタナベ ユタカ		東北大学・大学院工学研究科・量子エネルギー工学専攻・教授	工学博士	保全工学	知を応用するユニット担当、運営委員兼 産学連携委員長、原子炉廃止に関する教育研究と人材育成	1	
15	青木 秀之	アオキ ヒデユキ		東北大学・大学院工学研究科・化学工学専攻・教授	工学博士	化学工学	知を応用するユニット担当、運営委員兼 教務委員 兼 産官学連携委員、化学工学に関する教育研究と人材育成	1	
16	李 玉友	リ ギョクユウ		東北大学・大学院工学研究科・土木工学専攻・教授	博士(工学)	環境保全工学	知を応用するユニット担当、低炭素・循環型社会に貢献する環境保全技術の開発と世界的普及展開	0.5	
17	前田 匡樹	マエダ マサキ		東北大学・グリーン未来創造機構・教授	博士(工学)	建築構造学、地震工学	知を応用するユニット担当、運営委員兼 教務委員、建築構造学・地震工学に関する教育研究と人材育成	1	
18	五十嵐 太郎	イガラシ タロウ		東北大学・大学院工学研究科・都市・建築学専攻・教授	博士(工学)	建築論・建築史	知を応用するユニット担当、建築論・建築史に関する教育研究と人材育成	1	
19	高橋 信	タカハシ マコト		東北大学・大学院工学研究科・技術社会システム専攻・教授	博士(工学)	原子力工学	知を応用するユニット担当、教務委員、大規模複雑システムの社会受容に関する教育研究と人材育成	2	
20	河野 達仁	コウノ タツヒト		東北大学・大学院情報科学研究科・人間社会情報科学専攻・教授	博士(学術)	応用経済学、政策・プロジェクト評価	知を応用するユニット担当、教務委員、政策・プロジェクト評価に関する教育研究と人材育成	1	
21	佐野 大輔	サノ ダイスケ		東北大学・大学院工学研究科・土木工学専攻・教授	博士(工学)	環境水質工学	知を応用するユニット担当、教務委員、水利用における健康リスクに関する教育研究と人材育成	2	
22	今村 文彦	イマムラ フミヒコ		東北大学・災害科学国際研究所・教授(大学院工学研究科土木工学専攻 兼務)	工学博士	津波工学、防災科学	知を応用するユニット担当、運営委員兼 国際連携委員、津波工学・防災科学に関する教育研究と人材育成	1	
23	奥村 誠	オクムラ マコト		東北大学・災害科学国際研究所・教授(大学院工学研究科土木工学専攻 兼務)	博士(工学)	土木計画学	知を応用するユニット担当、防災・減災対策に関する教育研究と人材育成	1	
24	越村 俊一	コシムラ シュンイチ		東北大学・災害科学国際研究所・教授(大学院工学研究科土木工学専攻 兼務)	博士(工学)	自然災害科学	知を応用するユニット担当、自然災害科学に関する教育研究と人材育成	1	
25	寺田 賢二郎	テラダ ケンジロウ		東北大学・大学院工学研究科土木工学専攻・教授	Ph. D.	計算力学	知を応用するユニット長、運営委員兼 国際連携委員長、計算機援用データ駆動型リスク評価の教育研究と人材育成	1	
26	Anawat Suppasri	アナワット サップサー		東北大学・災害科学国際研究所・准教授(大学院工学研究科土木工学専攻 兼務)	博士(工学)	津波工学	知を応用するユニット担当、国際委員兼産官学連携委員 兼 事務局、複合災害科学に関する教育研究と人材育成	5	
27	有働 恵子	ウドウ ケイコ		東北大学大学院工学研究科土木工学専攻・教授	博士(工学)	海岸工学	知を応用するユニット担当、事務局、水災害科学に関する教育研究と人材育成	1	
28	五十子 幸樹	イカゴ コウジュ		東北大学・災害科学国際研究所・教授(大学院工学研究科都市・建築学専攻 兼務)	博士(工学)	構造制御	知を応用するユニット担当、構造制御に関する教育研究と人材育成	1	
29	江川 新一	エガワ シンイチ		東北大学・災害科学国際研究所・教授(大学院医学系研究科医学専攻・公衆衛生学専攻 兼務)	博士(医学)	災害医療国際協力学	知を応用するユニット担当、運営委員、災害医学に関する教育研究の企画運営	0.5	
30	児玉 栄一	コダマ エイイチ		東北大学・災害科学国際研究所・教授(大学院医学系研究科医学専攻 兼務)	博士(医学)	ウイルス創薬学	知を応用するユニット担当、教務委員、アウトブレイクに対する感染制御と創薬の融合研究と人材育成	0.5	

14 プログラム担当者一覧（続き）								
氏名	フリガナ	年齢層	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	パート(割合)	
31	小野 裕一	オノ ユウイチ	東北大学・災害科学国際研究所・教授 (環境科学研究科先端環境創成学専攻兼務)	博士(地理学)	国際防災政策	知を探究するユニット担当、運営委員兼 国際連携委員、国際防災政策に関する教育研究と人材育成	0.5	
32	福島 洋	フクシマ ヨウ	東北大学・災害科学国際研究所・准教授 (大学院理学研究科地球物理学専攻および地学専攻 兼務)	Ph. D.	測地学・地震学・自然災害科学	知を応用するユニット担当、運営委員兼 事務局、災害科学に関する教育研究と人材育成	1	
33	木村 敏明	キムラ トシアキ	東北大学・大学院文学研究科・広域文化学専攻・教授	博士(文学)	宗教学	知を探究するユニット担当、教務委員、民俗・宗教を中心にした災害人文学に関する教育研究と人材育成	1	
34	原 塑	ハラ サク	東北大学・大学院文学研究科・総合人間学専攻・准教授	Dr. phil.	科学哲学・応用倫理学	知を探究するユニット担当、教務委員、科学技術倫理に関する研究教育と人材育成	1	
35	籠橋 俊光	カゴハシ トシミツ	東北大学・大学院文学研究科・日文学専攻・教授	博士(文学)	日本近世史	知を探究するユニット担当、教務委員、歴史学に関する教育研究と人材育成	1	
36	西出 優子	ニシデ ユウコ	東北大学・大学院経済学研究科・経済経営学専攻・教授	博士(国際公共政策)	非営利組織論	知を探究するユニット担当、非営利組織に関する研究・人材育成・社会連携	1	
37	日引 聡	ヒビキ アキラ	東北大学・大学院経済学研究科・経済経営学専攻・教授	経済学博士	環境・資源経済学	知を応用するユニット担当、教務委員、被害経済評価・対策に関する教育研究と人材育成	2	
38	松田 安昌	マツダ ヤスマサ	東北大学・大学院経済学研究科・経済経営学専攻・教授	博士(理学)	統計学/データサイエンス	知を探究するユニット担当、統計学/データサイエンスに関する教育研究と人材育成	1	
39	末松 和子	スエマツ カズコ	東北大学・高度教養教育学生支援機構・教授	博士(教育学)	異文化間教育、国際教育	高度教養教育(国際化推進)科目担当	0.5	
40	渡部 由紀	ワタベ ユキ	東北大学・高度教養教育学生支援機構・准教授	Ph. D.	比較国際教育学	高度教養教育(国際化推進)科目担当	0.5	
41	米澤 由香子	ヨネザワ ユカコ	東北大学・国際連携推進機構・准教授	博士(教育学)	高等教育学	高度教養教育(国際化推進)科目担当	0.5	
42	David Grusky	デービス グラスキイ	Stanford University (USA), Barbara Kimball Browning, Professor in the School of Humanities and Sciences; Director, Center on Poverty and Inequality	Ph. D. (Sociology)	Sociology	知を探究するユニット担当、心理学の教育研究と人材育成	0.5	
43	Andrew Gordon	アンドリュウ ゴードン	Harvard University (USA), Professor of History	Ph. D.	History of Japan	知を探究するユニット担当、心理学の教育研究と人材育成	0.5	
44	大内 二三夫	オオウチ フミオ	University of Washington (USA), Department of Materials Science & Engineering, Professor Emeritus	Ph. D.	Materials Science	知を応用するユニット担当、プログラム支援アドバイザー	0.3	
45	Peter Sammonds	ピーター サモンズ	University College London (UK), Professor	Ph. D.	Natural hazard risks	知を応用するユニット担当、プログラム支援アドバイザー	0.5	
46	Fatma Lestari	ファトマ レスタリ	Universitas Indonesia (IDN), Professor of Occupational Safety, Public Health Faculty	Ph. D.	Risk management and Safety	知を探究するユニット担当、プログラム支援アドバイザー	0.5	
47	Francois Leblanc	フランソワ ルブラン	Sorbonne University (FRA), Professor	Ph. D.	Plasma physics	知を探究するユニット担当、プログラム支援アドバイザー	0.5	
48	Bruce Houghton	ブルース ホートン	University of Hawaii (USA), Professor	Ph. D.	Explosive volcanism/Hazards and Society	知を探究するユニット担当、プログラム支援アドバイザー	0.5	
49	武藤 潤	ムトウ ジュン	東北大学大学院理学研究科・地学専攻・教授	博士(理学)	構造地質学	知を探究するユニット担当、事務局、岩石力学に関する 教育研究と人材育成	1	
50	太田 雄策	オオタ ユウサク	東北大学・大学院理学研究科・附属地震・噴火予知研究観測センター・教授	博士(理学)	測地学	知を探究するユニット担当、事務局、測地学に関する 教育研究と人材育成	1	
51	大竹 雄	オオタケ ユウ	東北大学大学院工学研究科土木工学専攻・准教授	博士(工学)	地盤工学	知を探究するユニット担当、土木工学に関する教育研究と人材育成	1	
52	小松 丈晃	コマツ タケアキ	東北大学大学院文学研究科・総合人間学専攻・教授	博士(文学)	社会システム理論、環境リスク論	社会システム理論、環境リスク論に関する教育研究と人材育成	0.5	
53	村尾 修	ムラオ オサム	東北大学災害科学国際研究所・教授	博士(工学)	都市防災	知を応用するユニット担当、都市防災に関する教育研究と人材育成	0.5	
54	昆陽 雅司	コンヨウ マサシ	東北大学・大学院情報科学研究科・応用情報科学専攻・教授	博士(工学)	ロボティクス	知を応用するユニット担当、教務委員、ロボティクスに関する教育研究と人材育成	1	
55	姥浦 道生	ウバウラ ミチオ	東北大学・災害科学国際研究所・教授(工学研究科都市・建築学専攻兼務)	博士(工学)	都市計画	知を応用するユニット担当、都市・建築学に関する教育研究と人材育成	0.5	
56	古川 善博	フルカワ ヨシヒロ	東北大学・大学院理学研究科・地学専攻・准教授	博士(理学)	地球宇宙化学	知を探究するユニット担当、事務局、地球生命科学に関する教育研究と人材育成	0.5	
57	坂巻 隆史	サカマキ タカシ	東北大学・大学院工学研究科土木工学専攻・准教授	博士(工学)	水環境工学	知を探究するユニット担当、事務局、地球生命科学に関する教育研究と人材育成	1	
58	山田 正太郎	ヤマダ ショウタロウ	東北大学・大学院工学研究科・土木工学専攻・教授	博士(工学)	土木工学	知を応用するユニット担当、事務局、土木工学に関する教育研究と人材育成	1	
59	坂巻 竜也	サカマキ タツヤ	東北大学・大学院理学研究科・地学専攻・助教	理学博士	地球科学	知を探究するユニット担当、事務局、地球深部科学に関する教育研究と人材育成	1	

14 プログラム担当者一覧（続き）									
氏名	フリガナ	年齢層	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	ポイント(割合)		
60	山川 優樹		ヤマカワ ユウキ		東北大学・大学院工学研究科・土木工学専攻・教授	博士(工学)	計算地盤力学	知を応用するユニット担当、事務局、副事務局長、土木工学に関する教育研究と人材育成	1
61	森口 周二		モリグチ シュウジ		東北大学・災害科学国際研究所・准教授	博士(工学)	地盤工学	知を応用するユニット担当、事務局、土木工学に関する教育研究と人材育成	1
62	西脇 智哉		ニシワキ トモヤ		東北大学・大学院工学研究科・都市・建築学専攻・准教授	博士(工学)	建築材料学	知を応用するユニット担当、事務局、建築学に関する教育研究と人材育成	1
63	奥村 聡		オクムラ サトシ		東北大学・大学院理学研究科・地学専攻・准教授	博士(理学)	火山学	知を探究するユニット担当、国際連携委員、兼事務局、火山学に関する教育研究と人材育成	1
64	御手洗 潤		ミタライ ジュン		東北大学大学院法学研究科公共政策専攻(公共政策大学院)・教授	博士(工学)	自然災害・防災学	知を応用するユニット担当、自然災害・防災学に関する教育研究と人材育成	0.5
65	丸谷 浩明		マルヤ ヒロアキ		東北大学・災害科学国際研究所・教授	博士(経済学)	社会基盤学	知を応用するユニット担当、社会基盤学に関する教育研究と人材育成	0.5
66	林 歳彦		ハヤシ トシヒコ		独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構・技監	理学修士	鉱物資源探査	知を探究するユニット担当、産官学連携委員、鉱物資源探査に関する産官学連携と人材育成	0.5
67	下司 信夫		ゲシ ノブオ		国立研究開発法人産業技術総合研究所地質調査総合センター活断層・火山研究部門大規模噴火研究グループ・研究グループ長	理学博士	火山学	知を探究するユニット担当、産官学連携委員、火山学に関する産官学連携と人材育成	0.5
68	藤田 英輔		フジタ エイスケ		国立研究開発法人防災科学技術研究所巨大地震災害研究領域火山防災研究部門、部門長	博士(理学)	火山物理学	知を探究するユニット担当、産官学連携委員、火山物理学に関する産官学連携と人材育成	0.5
69	大沼 和弘		オオヌマ カズヒロ		東北大学大学院理学研究科地学専攻・特任研究員	博士(学術)	応用地質学	知を探究するユニット担当、事務局長、応用地質学に関する産官学連携と人材育成	10
70	嵩 さやか		ダケ サヤカ		東北大学大学院法学研究科総合法制専攻・教授	学士(法学)	社会保障法	知を探究するユニット担当、教務委員、社会保障法に関する教育研究と人材育成	0.5
71	磯田 弦		イソダ ユズル		東北大学大学院理学研究科地学専攻・准教授	博士(理学)	人文地理学	知を応用するユニット担当、教務委員、人文地理学に関する教育研究と人材育成	0.5
72	内藤 英樹		ナイトウ ヒデキ		東北大学大学院工学研究科土木工学専攻・准教授	博士(工学)	構造工学、地震工学、維持管理工学	知を応用するユニット担当、教務委員、構造工学、地震工学、維持管理工学に関する教育研究と人材育成	0.5
73	久保田 健吾		クボタ ケンゴ		東北大学大学院環境科学研究所先端環境創成学専攻・准教授	博士(工学)	環境工学、環境分子微生物生態学	知を応用するユニット担当、教務委員、環境工学、環境分子微生物生態学に関する教育研究と人材育成	0.5
74	Maly Elizabeth		マリ エリザベス		東北大学災害科学国際研究所・准教授	博士(学術)	建築学	知を応用するユニット担当、国際連携委員、建築学に関する教育研究と人材育成	0.5
75	琴浦 毅		コトウラ ツヨシ		五洋建設株式会社技術研究所土木技術開発部・グループ長	博士(工学)	海岸工学、港湾工学、技術開発	知を応用するユニット担当、産学連携委員会、災害リスクに関する教育支援	0.5
76	若林 緑		ワカバヤシ ミドリ		東北大学・大学院経済学研究科経済経営学専攻・教授	博士(経済学)	福祉経済、家族の経済学、応用計量経済学	知を探究するユニット担当、福祉経済、家族の経済学、応用計量経済学に関する教育研究と人材育成	0.5
77	仲尾 薫		ナカオ カオル		株式会社INPEX総務本部人事ユニット採用・研修グループ・マネージャー	学士(法学)	従業員採用・育成	知を応用するユニット担当、人材育成に関する産官学連携と人材育成	0.5
78	小野 正樹		オノ マサキ		株式会社安藤・開建設本部・土木設計部長	修士(工学)	地盤・構造物の動的構成解析・耐震・耐津波設計	知を応用するユニット担当、耐震・耐津波設計に関する産官学連携と人材育成	0.5
79	大塚 義一		オオツカ ヨシカズ		株式会社奥村組技術本部・環境技術専門部長	博士(地球環境学)	環境地盤・廃棄物・資源循環・災害廃棄物	知を応用するユニット担当、環境地盤・廃棄物に関する産官学連携と人材育成	0.5
80	細野 哲久		ホソノ アキヒサ		応用地質株式会社地球環境事業部地盤環境部・グループマネージャー	学士(理学)	地盤環境・重金属汚染	知を応用するユニット担当、地盤環境・重金属汚染に関する産官学連携と人材育成	0.5
81	佐々木 拓		ササキ タク		地熱エンジニアリング株式会社営業管理本部・管理部長		労務・人事・総務・安全衛生環境	知を応用するユニット担当、労務管理・人材育成に関する産官学連携と人材育成	0.5
82	渡邊 凌生		ワタナベ リョウ		復建調査設計株式会社沿岸・地震防災部・技師	修士(工学)	津波・高潮数値シミュレーション	知を応用するユニット担当、津波・高潮シミュレーションに関する産官学連携と人材育成	0.5
83	永見 光三		ナガミ コウゾウ		東北大学グリーン未来創造機構・特任教授(研究)	博士(国際地域学)	災害リスク評価・防災復興政策	知を応用するユニット担当、運営委員、災害リスク評価・防災復興政策に関する教育研究と人材育成	0.5
84	小森 大輔		コモリ ダイスケ		東北大学グリーン未来創造機構・特任教授(研究)	博士(農学)	水文学・災害リスク統合研究・農業気象学	知を応用するユニット担当、運営委員、水文学、災害リスク統合研究・農業気象学に関する教育研究と人材育成	0.5
85	菅原 大助		スガワラ ダイスケ		東北大学・災害科学国際研究所・准教授(理学研究科・地学専攻兼務)	博士(理学)	津波堆積学・津波工学	知を応用するユニット担当、事務局、津波堆積学・津波工学に関する教育研究と人材育成	0.5
86	柴山 明寛		シバヤマ アキヒロ		東北大学・災害科学国際研究所・准教授(工学研究科 都市・建築学専攻およびグリーン未来創造機構兼務)	博士(工学)	災害情報学、地震工学、地域防災、建築工学	知を応用するユニット担当、事務局、災害情報学、地震工学、地域防災、建築工学に関する教育研究と人材育成	0.5
87	秋山 慎太郎		アキヤマ シンタロウ		独立行政法人国際協力機構地球環境部防災グループ・次長兼防災グループ長	経営学士	国際協力(防災分野)	知を応用するユニット担当、産官学連携委員、国際協力(防災分野)に関する教育と人材育成	0.5

14 プログラム担当者一覧（続き）							
氏名	フリガナ	年齢層	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	ポイント(割合)
88	吉田 雄一	ヨシダ ユウイチ	東京海上日動火災保険株式会社 経営企画部・部長兼サステナビリティ室長	工学士	保険制度	知を応用するユニット担当、産学連携委員、保険制度に関する教育支援	0.5
89	島倉 広至	シマクラ ヒロシ	住友金属鉱山株式会社資源事業部本部 事業室・課長	修士(理学)	金属鉱山開発プロジェクトの経済性評価	知を探求するユニット担当、産官学連携委員、金属鉱山開発プロジェクトの経済性評価に関する産官学連携と人材育成	0.5
90	石川 正樹	イシカワ マサキ	日本工営株式会社 仙台支店都市交通部・部長	学士(理学)	道路	知を応用するユニット、産学連携委員、道路に関する教育支援	0.5
91	大石 史哉	オオイシ フミヤ	鹿島建設株式会社成瀬ダム堤体打設JV 工事事務所・工事課長代理	修士(情報科学)	土木施工	知を応用するユニット担当、土木施工に関する産官学連携と人材育成	0.5

成果の概要【2ページ以内】

成果の概要として、①特筆すべき成果のあった事項、②計画通り進んでいる事項、③改善が必要な事項、④プログラムとしての今後の見通しを簡潔に記載してください。

① 特筆すべき成果のあった事項

○人文社会学系学生の参加の拡大：本プログラムが対象とする災害科学・リスク管理は、本質的に関連分野が広範にわたり、人文社会科学を含む幅広い専攻からの学生の受入と教員の協力、国内外の多様なセクターの研究者や専門家の協力が不可欠である。本プログラムでは、7研究科 15専攻 1研究所と海外の7つのトップレベル大学、15の連携企業・団体の参画を得て、6研究科 12専攻から学生を受け入れ、学位プログラムだからこそ実現できる三つの教育方針 ①仲間から学ぶ（文理融合・分野横断型教育）、②現場から学ぶ（産官学協働教育）、③世界から学ぶ（国際教育）、を実現する体制を構築した。中でも、人文社会学系の学生割合は、中間評価時の12%から18%へと増加し、人文社会学系の学生にも適した学位プログラムとして定着させることができた。

○産官学協働によるキャリアパスの確立と拡大：サステナビリティコンソーシアムを新たに構築し、企業フォーラムの毎年開催を実現した。実施方法に工夫と改善を重ね、単なる会社説明会とせず、幅広い専攻に所属するプログラム生のポスター研究発表を取り入れた。その結果、企業・団体参加者からは、「想像もしなかった分野・専攻に魅力的なリクルート対象となる博士学生がいる」という“気づき”が得られ博士学生の採用活動の対象が広がったという評価が得られた。学生にとっても自身の研究力が意外な企業で活かせること、社会からどのようなニーズがあるかを知る貴重な機会として定着させることができた。企業フォーラムには、本プログラムには所属しない学生も多数参加しており、それが企業・団体にも魅力となって参加企業・団体数の拡大につながり、相乗的な波及効果が得られている。企業・団体で学位を有する講師によるキャリアパス講義「現場のフロンティアサイエンス」は、本プログラム開始以前から実施していた講義を継承発展させたもので、同講義を聴講して就職したOBが講師として来学する例が増えており、産官学協働による人材の再生産サイクルが確立された。これらの事業の結果、これまでに輩出した本プログラム修了生は、全員が円滑に就職している。

○地球規模課題の解決に向けた複層的でグローバルなプログラムの構築：主要科目の一つであるPBL研修のI-ラボでは、ハーバード大学教員や、JICA（国際協力機構）による地球規模課題に関する課題を毎年設定している。また、選択必修科目として「防災の国際潮流と仙台防災枠組（英語講義）」を設け、国際協力の実践を講義と研修の両面から身に付けている。そのほかニューヨーク国連本部、ワシントンDC世界銀行、アジア太平洋防災閣僚会議などへの海外研修、環太平洋大学協会APRUによる気候変動に関する学生ワークショップへの参加など、将来の国際機関への人材輩出も視野に入れた、卓越大学院ならではの複層的でグローバルなプログラムを構築することが出来た。

② 計画通り進んでいる事項

○“知のプロフェッショナル”を育成するカリキュラムの整備：育成目標とする「スノークリスタル型人材」の概念を掘り下げ、単なるtransferable skills教育を超えた“知のプロフェッショナル”を育成するカリキュラムを整備した。リスクマネジメント・プロジェクトマネジメント・防災の国際潮流という、プログラム生に共通して必要とされる知識を、必修科目と選択必修科目によって身に付けるとともに、専門研究力を社会での実践に活かすために求められる多角的な能力を修得するための学融合科目群と研修科目群を、学内連携と産官学連携によって整備した。

○開かれた質保証システムの構築：学生の選抜やQE時には、専門性と公平性を考慮して丁寧に審査委員を選任し、修了時のQE3では連携企業・団体からも審査委員を招聘して、学生を採用する立場からのフィードバックを得る体制を整えた。学生募集から学位審査時までの節目では、高等大学院機構産学共創大学院プログラム部門への報告や承認を必要とし、確実な質保証システムが構築された。

○KPIの達成：プログラム学生の研究レベルは高く、JSPS特別研究員の採択率は発足当初から3割を

維持し、在籍学生数当りの論文数・学会発表数・受賞数のいずれも目標値を達成している。連携企業・団体数も KPI を達成して必要な学外協力が得られており、その結果インターンシップ人数・エクスターンシップ件数も目標値を達成している。新型コロナウイルス感染症の影響を直接受けた海外派遣国数や海外大学等への派遣者人数も、令和 5・6 年度の二年間で急速に回復し目標値をほぼ達成した。

③ 改善が必要な事項

KPI のうち、博士学位取得者数は、目標値（＝各学年の定員）に到達していない。その主要な要因は、一般の大学院生の場合と同様に博士後期課程進学後の中途退学と、3 年で学位を取得できない過年度であることから、参画専攻・研究科の教務と連携し、博士後期課程での中途退学率と過年度学生率とを減らし、所定年限で学位を取得できる学生の比率を増やせるよう努力を行っていく必要がある。また、社会人特別選考による博士後期課程入学生を想定した企業特別研究員の確保については、後期課程のカリキュラムに社会人博士を想定した実践研究コースを設置したが、まだ受入は実現していない。その対策として、本学では 2025 年秋入学者より「企業連携博士学生支援制度」を創設して、社会人博士学生の経済支援を充実させることを決定している。本プログラムでも、社会人博士の履修を促進し人的ネットワーク形成を支援する実践研究コースを既に整備した。本プログラムの特性に鑑み、国立研究開発法人等における修士修了者の受入を図る必要もあり、博士学生共同指導促進のためのワークショップを開催するなど連携推進を図っている。学生間の交流の場として設定したランチミーティングには、様々な試みを施したものの、キャンパス間の移動など時間的な制約が大きく、令和 6 年度から顕著な改善が見られた学生定例会議の開始時に懇談の時間を設けることとした。

④ プログラムとしての今後の見通し

東北大学は、令和 6 年度、国際卓越研究大学に認定されたことに伴い、「東北大学高等大学院」の令和 9 年度創設に向けたタスクフォースを立ち上げた。タスクフォースでは、本卓越大学院プログラムを含む高度研究人材の育成・輩出の機能を強化すべく、1) 学際・国際・産学共創の類型を超えた学位プログラムの新規構築、2) 人文社会系を含む博士課程学生全体のキャリアパス開発・形成支援、3) 大学院全体の一元的なマネジメント体制の構築、といった全学的な教育改革について検討を開始している。令和 3 年 4 月に設置した「高等大学院機構」では、本学独自のプログラムである「グリーン×デジタル産学共創大学院プログラム」や「食科学国際共同大学院プログラム」を開始するなど、学位プログラムの拡充に加えて、ディシプリン横断型学位プログラムの全学的マネジメントとプログラムの質保証を行っている。高等大学院機構内に設置する大学院改革推進センターでは、博士課程学生の学際的視野の拡大やキャリアパスの多様性を追求するため、大学院共通科目の管理運営、キャリアパス開発支援の充実、トランスファラブルスキルの修得、博士課程学生への経済支援の強化など、博士課程学生の学修・研究専念環境整備に関する全学的な取組の企画立案及び調整等を行い、大学院改革の推進及び博士課程学生への支援を強化する体制を構築している。

本学ではこれまでも、21 世紀 COE、グローバル COE、リーディング大学院等、国からの補助金終了後も独自財源で継続実施してきた実績がある。今後も高等大学院機構の各プログラム及び学内の各局等が持つ教育研究資源を活用した事業を展開し、大学院改革を進めるとともに、大学全体の研究力強化につなげていく。また、補助期間終了後も本卓越大学院プログラムを継続すべく、従来の国立大学最大級の総長裁量経費に加え、国際卓越研究大学の認定・認可による大学ファンド助成金を併せた法人戦略予算という学内資金を活用するとともに、産学連携による企業からの外部資金獲得の拡大により、学位プログラムの運営および参加学生の支援にかかる経費を継続して確保していく。

本プログラムは、本学の災害科学・地球惑星科学・リスク管理分野における産学官連携拠点やプロジェクトの活動、世界展開・国際防災事業、大型研究の遂行等に対し、研究の主たる担い手である大学院生の支援および人材育成を通じて貢献している。本学の掲げる「教育・研究・社会連携の好循環」のエコシステムの中で着実に継続し、さらなる発展を図る。